

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473301008
法人名	有限会社真全
事業所名	グループホーム まっとう
訪問調査日	平成 19 年 9 月 4 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 22 日
評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473301008
法人名	有限会社真全
事業所名	グループホーム まっとう
所在地	神奈川県横浜市緑区長津田町2365番地 (電話) 045-989-2266

評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成 19年 9月 4日	評価確定日	平成 19年10月22日

## 【情報提供票より】( 19年 6月 30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	11人, 非常勤 7人, 常勤換算 6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	315 円	昼食	525 円
	夕食	630 円	おやつ	105 円
	または1日当たり 1,575 円			

### (4) 利用者の概要( 6月 30日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団有仁会 島津メディカルクリニック(訪問診療) 医療法人社団三喜会 横浜新緑総合病院(救急対応)
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>運営者は、高齢者が様々な障害を持って、その人らしく自然体(まっとう)で人生を全う(まっとう)することの大切さを理念としてグループホームを開設し、運営している。その実現に向けて、ナオミ・フェイルの提唱するパリエーション(心理療法)を職員と共に学び、サービスに反映させている。</p> <p>内科医・歯科医による定期健診を行い、利用者の健康管理に留意している。</p> <p>利用者本人・家族・知人等から把握した生活歴や嗜好等の情報を、「まっとう家の人々」と題した一覧表に記録、把握して、利用者の気持ちに添ったサービスの提供に努めている。</p>
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価受審である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の受審に向けて、1年前より全職員で自己評価を行い改善に取り組んでいる。運営者・法人事務局・管理者・主任等で改善担当を担い、「改善スケジュール作業内容シート」に沿って実施し、毎月の会議で検討して改善につなげ、マニュアル・記録書式等の整備をしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議の開催に向けて、内容やメンバーを検討している。内容は理念の実現に向けて、メンバーとしては緑区の職員、自治会などの地域の方々を想定している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者の生活状況は、定期的に、更に家族の訪問時にも報告している。また、利用者個々の変化に合わせた随時の報告も行っている。家族が意見や要望を伝えやすいように努めるとともに、意見や要望があった場合は全体会議で検討して改善し、運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、神社の祭に参加している。ホームの夏祭りに地域住民を招待したり、近隣の小学生の体験学習の授業として、訪問を受け入れるなどの交流も日常的に行っている。また、地区センターをホームの全体会議に使用したり、利用者・職員が一緒に弁当持参で出かけて、カラオケを楽しむなど、地域資源も活用している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者は、高齢者が様々な障害を持って、その人らしく自然体(まっとう)で人生を全う(まっとう)することの大切さを念頭に「その人らしく自然体に共にまっとうする」の理念をつくり、グループホームを開設している。更にその実現に向けて、ナオミ・フェイルの提唱するバリデーション(心理療法)を職員と共に学び、介護への反映を図っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲示し、運営者主導のナオミフェイルのバリデーションについて、勉強会を通して職員間の共通理解を図っている。管理者はホームの日々が「利用者も職員も無理をしない生活」であることを大切と捉え、職員は「利用者の気持ち、何を望んでいるか」を念頭に日々の支援に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方々とは、散歩の途中で挨拶を交わした際に畑の野菜や花をもらったり、ホームの夏祭りに招待する等、日常的な交流を図っている。体験学習の授業として近隣の小学生がホームを訪問し、利用者と一緒に歌ったり、ゲームをして楽しんでいる。地区センターをホームの全体会議の会場として使用したり、利用者・職員が一緒に出かけて昼食を摂り、カラオケなどを楽しんでいる。自治会にも加入している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初回の外部評価受審であり、1年前より受審に向けて、全職員参加で自己評価を行い、改善に向けて取り組んでいる。運営者・管理者・事務局・主任等で改善担当を担い、「改善スケジュール作業内容」シートに沿って、マニュアル、記録書式等を整備している。自己評価の気づきから、外出支援等の日々の介護サービスに反映させている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催に向けて、会議内容やメンバーを検討している。内容は理念を基にしたもので、メンバーには緑区職員、自治会などの地域の方々を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	緑区主催のホーム長会議に出席するなど、連携に努めている。今後は市や区主催の研修に職員を参加させていく意向である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の暮らしぶりや行事等の様子は、2ヶ月毎発行の「まっとう通信」や、家族の訪問時に職員から報告をしている。毎月の受診結果や病気等の突発的な事故、訪問が困難な家族には、主任が随時電話で報告し記録をしている。また、金銭は小遣い程度をホームが預り、小遣い帳に記録し、家族に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情担当窓口は、重要事項説明書に明記するとともに、玄関に掲示している。1階玄関に意見箱と用紙を設置しているほか、家族の訪問時には意見や要望等を聞き、その把握に努めている。家族より「レクリエーションをもっと多く取り入れてほしい」との要望を受け、家族参加の「夏祭り」の開催につなげている。居間に家族と一緒に笑顔の利用者の写真を貼って楽しんでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職する場合は、利用者が不穏にならないように、事前に、職員自らが離職日や理由を説明する等して利用者の精神面に配慮している。管理者交代の際には、管理者本人・運営者から「ご挨拶状」を退職前に家族に送付し、家族会での挨拶、説明を行うなど、家族にも対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員参加で毎月1回開催の「まっとう業務連絡会議」に、勉強会を位置付け、認知症(18/12/1)・食品衛生(2/16)等の研修を行っている。現在は運営者主導によるナオミフェイルのバリデーションについての研修を毎回加える等して、職員の育成を図っている。職員と運営者が共に学ぶことで双方の距離が近くなり、共通の理解を持って日々の介護に反映させている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	緑区のグループホーム連絡会に平成19年8月より加入し、今後交流を図っていく意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居にあたっては体験入居を採り入れ、利用者等とホーム関係者で検討して、入居決定をしている。入居初期から利用者がホームの生活に慣れるまでの期間は、職員と一緒に過して不安解消に努めている。その間はADLをより具体的に記したアセスメントシート及び日々の介護記録を職員間で共有し、更に申し送りノートで詳細な伝達を行う等の対応をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の活動の場面作りとして、洗濯物の整理や食事の手伝い、花壇の水撒き等、様々に工夫している。利用者を先輩として、職員は利用者から学んでいる。昼食後に、キッチンまで食器を運んだ際に、職員から丁寧な感謝の言葉を受けた利用者が笑顔でうなづく姿を見受けた。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の思いや意向、生活歴等はアセスメントシートに記載し、把握している。更に利用者の個人ノートを作り、職員が本人・家族・知人から折々に聴き取った事柄を記入し、利用者全員の情報一覧表に反映させている。全利用者の学歴・職歴・性格・趣味・嗜好等の情報を記した「まっとう家のひとびと」と題した一覧表を作成し、職員に配付して共有を図っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成にあたっては、職員1名が利用者1名により関わる居室担当制を採り、更に全職員でモニタリング、ケアカンファレンス等を行い、本人や家族の意向を反映させた介護計画を作成している。職員は日常生活での利用者の気づきを個人ノートに記録し、カンファレンス、介護計画の作成、見直しに関わっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎にアセスメントを見直し、介護計画書を作成している。退院してきた利用者に対してはアセスメントを再記録し、家族を加えたケアカンファレンスを行い、介護計画を作成して、利用者の状況に応じた介護を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、要望に応じて支援をしている。全利用者を対象とする2週間毎の内科医による定期健診や歯科医の往診を行って又、利用者の希望によって、訪問理美容の利用や家族に代わっての通院介助の支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を大切に、かかりつけ医とホームの関係を築くと共に定期的内科医師の往診を受け、適切な医療が受けられるように支援している。毎月の診察スケジュール表に医師の往診や、家族と一緒に通院や職員付き添いの通院等を記載して支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書に看取りについての規定を設けている。現在、希望者はいないので対応していない。将来的には、受け入れに対して職員教育や医師との協力体制等を図り、家族会とも話し合っていく意向である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員に「日々の生活では大声を出さず、利用者の尊厳を損ねない介護」を毎日の申送りや全体会議で指導をしている。職員は丁寧な言葉遣いや接し方をしており、食事介助においてもさり気ない言葉かけをしながら支援している。個人情報に記載されている記録等は事務室で保管し、研修会で取り扱いについて注意喚起している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかに決められたスケジュールの中で、職員は利用者のペース・意向に沿った支援を行っており、家族との外出・外泊も可能となっている。起床も利用者ペースで、朝食は起床時間に合わせて2、3人ずつ提供している。居室でレース編みを、居間でハーモニカを楽しむなど、利用者が思い思いに過ごしている姿を見受けた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事作りや盛り付けを行っている。食べ終わると出来る人はそれぞれ食器を下げるなど、無理をせず生活の一部として行っている。食事は音楽を流して、職員と一緒に話をしながら楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	跨ぎを必要としないドア付きの浴槽(個浴)を利用し、入浴支援の程度は個々に異なるが、職員が必ず付き添っている。基本は2日置きであるが、希望すれば連日利用もできる。時間帯も午前・午後いずれでも良く利用者の意向に沿っている。入浴拒否の利用者には無理をしないで日にちや時間を変え、担当職員も代える等して対応している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味を把握し、生活の中で掃除・洗濯物の整理・花の水遣り等の役割を提供し協力し合っている。工作や習字の作品を玄関・居間に展示している。花見等の季節行事や誕生会等の楽しみを年間行事計画に組み実行している。訪問時に、誕生会の練習を利用者と職員が笑顔で行っている姿を見受けた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が1対1で付き添い、花を見に行ったり、近くの地区センターに弁当持参で行き、カラオケを楽しんだりしている。デパートのペットコーナーへの外出も利用者に好評となっている。杖を使う利用者に職員が付き添って、散歩に出かける姿を見受けた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前は坂道で危険な為、玄関は施錠している。職員は外出傾向のある利用者を把握し、利用者の状況に合わせて一緒に外出している。居室は内外で施錠できるが、施錠はしていない。ベランダ側のガラス戸の鍵は開けることができるが、ベランダ外壁は木材で高めに造られている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者講習を受講し、様々に災害対策に取り組んでいる。マニュアルを整備し、消防署の指導で消防訓練を実施している。年2回の訓練を予定しており、次回は利用者も参加した訓練を検討している。居室や居間は防火カーテンや防火絨毯を使用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>専門業者に委託し、栄養士が作成した献立の材料が配達され、職員と利用者が調理している。訪問時の昼食は赤・黄・緑と彩り良く、栄養面・量・味に配慮されており、嚥下が困難な利用者には、刻んだ形態で提供している。個人記録に日々の水分補給量・摂食量を記録し、状態を把握して補完している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>高台に建つホームの周囲は緑が多く眺めもよく、静かで利用者は小鳥のさえずりで起床している。明るいリビングには日差し避けのカーテンを配置し、広いテーブルや、テレビに向けてソファもある。玄関には皆で作った干支の置物を置き、壁には花の絵・夏祭りの写真が貼られている。日中はリビングで過ごす人も多く、気持ちよく過ごせるように工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>重要事項説明書に愛用の品の持ち込みを許可とすることを明記し、居室には、テレビ・椅子・テーブル・小物入れ等が持ち込まれている。花や家族の絵を飾るなどして、利用者それぞれの好みの部屋になっている。また、消臭・除菌効果があるカーテンを使用し生活空間に配慮している。</p>		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームまっとう
(ユニット名)	A・B
所在地 (県・市町村名)	横浜市緑区長津田町2365番地
記入者名 (管理者)	水野 由子 (廣田 博)
記入日	平成 19年 7月 30日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく自然体に共に人生をまっとうするという独自の理念を作りあげている。		実施している内容を継続していけるようにする。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に掲示しており、理念の実践に向けて管理者と職員は日々取り組んでいる。		実施している内容を継続していけるようにする。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム名そのものが理念であることを理解してもらえるよう家族会などを通じて取り組んでいる。		地域に向けた便りを発信し取り組んでいく。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の時など、近所の方に職員が積極的に声をかけ、利用者が話しやすい場を提供し会話がすすむように努めている。		散歩の機会を多く取り入れ、近隣の人との関わりができるよう取り組んでいく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の神社のお祭り、小学校の生徒の社会科見学、地区センター図書館に出かけたりして、地元の人々と交流することに努めている。		自治会や地域活動に積極的に参加していくよう取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施できる機会がなく実施できていない。		今後の課題であり、できるところから取り組んでいく
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、初めての取り組みとなるため実施していない。		実施する意義を理解し、評価を生かして具体的な改善に取り組んでいる。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今回、初めての取り組みとなるため実施していない。		会議を通じて報告や話し合いを行い、理念を浸透させるために取り組んでいく。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	連携ができていない。		今後、取り組む予定
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実施されていない。		権利擁護に関する制度は理解している。必要な人には活用できるよう支援していく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実施している。		管理者や職員は虐待が100%ないことを徹底する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	時間をかけて、納得のいくように説明を行っている。	今後も実施していく。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者の会話に耳を傾け、意見、苦情、不満を職員が受け止め、管理者等と話し合いながらそれを運営に反映させている。	今後も実施していく。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	定期的に通信文を発行している。家族に面会時や電話で連絡、報告を行っている。	今後は、月1回の家族会を設け報告を行っていく。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	定期的に家族会を開いており、意見、不満、苦情を表す機会を設け運営に反映させている。	今後は、月1回の家族会を設け報告を行っていく。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	ケアカンファレンス、全体会議などを通じ、情報の共有化等により利用者の安全安楽な生活に反映させている。	月1回のケアカンファレンスと全体会議を実施していく。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	なるべく努めているが勤務の調整が難しいときもある。	今後は柔軟な対応ができるよう、話し合いの機会を設けていく。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員が離職をする場合は、利用者が不穏にならないように配慮している。	離職を最小限にとどめられるよう、職員の教育の場を設けていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1度の全体の内部勉強会や外部研修を受ける機会を確保し働きながら育てていくことを進めている。		法人内外の研修計画を立て、取り組んでいく。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組んでいない		グループホーム連絡会に加入申し込み中で、今後交流する機会を持ち、取り組んでいく。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	主任級職員が悩みの受け皿的役割をしている。		一人ひとりと面談を行いストレスが軽減するよう取り組んでいく。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	改善点などを提案できる機会を設け、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と話す機会を多く設け、否定せず受け止める努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族と細かいところまで話合い、ゆっくりと時間をかけてよく聴き、受け止める努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは家族の話をよく聴き、本人にとって一番必要なサービス利用は何かを見極め、対応に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居していただき、不安な気持ちにならないよう家族と協力し徐々に馴染めるよう、工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一人ひとりに合った過ごし方を見つけ出し、共に楽しんだり喜んだりしながら、支えあう関係を築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	時には家族と本人との架け橋になることなども想定し家族との連絡は密にして一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所に至るまでの本人と家族、入所してからの両者の関係を理解し関係性の向上を支援することに努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の写真を見て会話をしたり、時には懐かしい場所にてかけ、馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりを把握し、孤立しないように関わりあえるよう、またよりよい関係性の中で日常生活が送れるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないよう連絡を取り合い、つきあいを大切にしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのその人らしさを大切にし、その人が望む暮らし、意向の把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や馴染みの方などから聞いたこと、情報提供書などからこれまでの暮らしの把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態や有する力など一人ひとり、その人にあった一日の過ごし方をケアプランに反映させて総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当制を作り、モニタリングや課題分析、ケアカンファレンスを全員で行い、本人や家族の意向を反映した介護計画を立を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。見直し以前に対応できないような変化が生じた場合は本人、家族、その他の関係者と話し合い、現状に合った新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践、結果、気づきや工夫を個人記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		申し送りノートや往診記録、個人ノートからも情報を共有し見直しに活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	単独のため多機能を活かさない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じて近隣の学校やボランティア等と協力しながら支援している。		今後は自治会とも協力しながら、支援していく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問看護や訪問歯科受診などを実施し、支援している。		今までの取り組みに加え、訪問リハビリを取り入れ今後のサービス支援に取り組んでいきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	実施していない		今後は地域包括支援センターと協働していく
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築くとともに、月2回の定期内科医往診を受け適切な医療を受けられるように支援している。		今後も取り組み、支援する。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診の医師に相談し、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう専門医師の紹介をしていただき、支援している。		今後も取り組み、支援する。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	1ヶ月に2回の訪問看護により、利用者の健康管理や医療利用活用の支援をしている。		今後も取り組み、支援する。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるよう病院関係者、家族との情報交換に努めている。		今後も取り組み、支援する。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今のところは実施されていない。		今後、全員方針を共有していくように話合っている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	実施されていない		今後の変化に備えて検討している。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから別の居所へ移り住む際、家族や本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		今後も努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いには万全に注意をはらい徹底している。</p>	<p>今後も実施していく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の意思を尊重し、思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。</p>	<p>今後も支援していく。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいかその人に合った生活を優先して希望に添った暮らしを支援している。</p>	<p>今後も支援する。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理美容を実施しており、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。</p>	<p>今後も継続する。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人ひとりの好みや力を活かしながら、無理のない程度に利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。</p>	<p>静かな音楽を流す環境づくりと、職員とともに談笑しながら楽しく食事ができるように支援している。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの状況に合わせて、家族と相談しながら日常的に楽しめるように支援している。</p>	<p>家族や関係者と相談しながら支援していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録表により管理し、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		排泄状況を日々職員間で申し送りし、気持ちよく排泄できるよう支援する。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングにあわせて、入浴を楽しめるように支援している。		基本的には日曜日に入浴を休みにしているが、入浴を希望する場合はその状況に応じて支援している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心して気持ちよく休息したり眠れるように、一人ひとりの生活習慣やその他の状況に応じて、本人や家族と相談して支援している。		今後も支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、常日ごろの会話やご家族、知人などから生活歴を引き出し、気晴らしの支援をしている。		一人ひとりのノートをつくり、職員が気づいたこと、家族や知人などから聞いたことを記入したものを共有し、支援に努めている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したれ使えるように支援している。		お金の管理は出来ないが、使いたい場合は家族からの預かり金で対応し、支援している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周りを取り巻く環境が、急な坂道で危険なため、日常的な外出は困難で、少ないが、なるべく戸外にでかけられるよう支援している。		車で近くの公園まで移動し、過ごせるように支援する。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事などの機会をつくり、他の利用者や家族とともにでかけられるよう支援している。		季節感や気分転換をはかるため、年間行事として外出支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		レクなどでも季節にあわせてお手紙をつくるように支援している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等にも積極的にお誕生日会やレクに参加していただき、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している。		イベントなどに参加していただき、気軽に訪問できるように工夫している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者および全ての職員は、身体拘束の意味を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		今後も取り組んでいく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		今後も取り組んでいく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は3時間ごとの巡視、日中は常に安全に配慮して所在確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針や鉄など注意の必要な品は一人ひとりの状況に応じて保管・管理して危険を防ぐ取り組みをしている。		家族や本人と話し合った上で、管理・保管している。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故報告書などを活用し、再度事故のないように取り組むとともに、マニュアルなどで知識を学び事故防止に取り組んでいる。		定期的に内部研修を行い、外部研修に参加する機会を設け知識を学んで事故防止に取り組んでいけるようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	必要であると理解しているが、まだ完全とはいえない		今後、応急手当や初期対応の講習会などに定期的に全員参加できるようにする。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	働きかけていない		早急に地域の方々との協力を得られるよう働きかけていく
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりにおこり得るリスクに関して個別に家族と日ごろから話し合いの場を設けて対応している。		今後も話し合いの場を設けて対応する。
し				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定時のバイタルチェックや申し送り、個人記録などで職員間が情報を共有し、対応に結び付けている。		24時間往診の先生と対応ができるため、体調の変化に気づいた際はすぐに連絡し、指示をいただいている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬局よりいただく服薬情報を共有し、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		薬についての勉強会を開いて支援に努める。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食べ物の工夫、日課のラジオ体操、散歩などで便秘の予防に取り組んでいる。		便秘の予防と対応について、今後職員全員が理解できるよう勉強会を設けて、支援に取り組んでいく。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個別の口腔ケアと月2回の歯科往診で支援している。		口腔ケアについての勉強会を設け、職員全員が理解し一人ひとりの口腔に応じた支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量や水分量の記録を行い、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		天候や入浴後、夜間などそのときに応じた対応で支援している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成し、職員が共有できるようにしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	検食を3日分冷凍保存し、毎日布巾、まな板等の消毒、食器は乾燥機を使用し衛生管理に努めている。食材は決められた業者より使用する分だけ配達されてくる。		食材に触れるときには、石鹸にて手洗い励行
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りを広くとり、花壇をつくり菜園などをして利用者や家族、近隣の人が親しみやすく安心して出入りできるように工夫している。		広い玄関のため、もう1本手すりがあるとより安全に出入りできるようになる。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑に囲まれた環境と学校が目の前であるため、生活感や季節感を取り入れて居心地よく暮らせるよう工夫している。共有の空間も広くとられているため、不快な音や光がないように工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングがあり、レクを楽しんだり、談笑して過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談しながら使い慣れたものや馴染みのものを活かして居心地よく過ごせるよう工夫している。		今後も配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫していく
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室は24時間換気ができるような空調設備が整っており、利用者の体感に応じて調節している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりによって自立歩行ができるような環境をつくっている。</p>	<p>手すりの取り付け位置や増設箇所について改善の検討を提案している。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>カレンダーや時計などを置いてわかりやすくして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよう工夫している。</p>	
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダにテーブルとイスを置き、利用者が自由に楽しめるように活かしている。</p>	<p>建物の外にもベンチを置き、楽しんでいただけるよう提案する。</p>

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

バリエーションの教育及び実践に取り組んでいる。